

好奇心が豊かな発想を生む ～八代地区科学発明工夫展から～

10月6日～8日にかけて、八代地区小中学校科学発明工夫展が開催され、本校の萩平陸叶さん（2年）と吉田稀心さん（1年）がそれぞれ特選、入選を受賞しました。両作品とも好奇心にあふれる素敵な取り組みでした。



特選 2年 萩平陸叶「身近なもので作れるスマホスピーカー」

スマホから流れてくる音楽を、もっと大きな音量で聞きたいというのがきっかけ。買おうかとも思ったが、お金をかけるより自分で作ってみようと思った。鉄バケツが最も音の反響が良いと考えた。節約にもなったし、身近にある物を利用して自分で作ることで、目的を達成することができて良かった。



入選 1年 吉田稀心「納豆は種類によって粘り気は違うのか」

納豆は好きだけど、粘り気が苦手なので、納豆の種類と粘りについて調べてみたくなった。結果、ひきわり納豆より、自分が普段食べていて好きな普通の納豆がよく粘ることが分かった。実験してみて、種類によって粘り気に違いがあることが分かって楽しかった。やっぱり納豆は粘ってもおいしいなあ。



今回、本校では約50人からの出展がありました。取り組んだ生徒に共通することは、何気ない日常の中で感じた疑問をそのまま見過ごさず、抱いた「好奇心」を大切に「行動」に移したということです。「疑問に思っていることを明らかにしたい」「生活をより良くしたい」といった思いが、一人一人の「探究心」や「創造力」をかき立て、それぞれの実践へ結びつけたのだと思います。素晴らしい！

現在の Panasonic を創業し、世界的企業へと成長させた松下幸之助は「『なんとしても二階へ上がりたい。どうしても二階へ上がろう。』この熱意がハシゴを思いつかせ、階段をつくり上げる。上がっても上がらなくてもと考えている人の頭からは、決してハシゴは生まれない。」と言っています。今回、出展した生徒の皆さんの発想と行動力に、改めて敬意を表したいと思います。



平和の尊さを学びました ～平和教育講演会～

10月11日（水）に広島市認定の被爆体験伝承者である水野隆則さんを講師にお招きし、平和教育講演会を実施しました。ご両親が原爆の被爆者であり、若くして被爆した祖母（お母様の母）の遺骨がないことを悔やんでおられたお母様の思いに触れ、被爆体験伝承者になることを決意されたそうです。家族をはじめとする被爆者から受け継いだ被爆体験や平和への思いについて当時の写真などを交えてお話しくださいました。



水野さんの、原爆の投下を「『戦争だったから仕方がなかった』で片付けないでほしい。」という言葉、生徒達も真剣に受け止めていました。



水野さんの、原爆の投下を「『戦争だったから仕方がなかった』で片付けないでほしい。」という言葉、生徒達も真剣に受け止めていました。